



有限会社せいわの里 (三重県多気郡多気町)  
北川 静子 代表取締役

GUEST

## 農村の食の恵みを次世代に伝えたい

全国商工会連合会の中小・小規模企業成長実行本部、増山としかず本部長が全国の経営者に話を聞くコーナー。第3回は、補助金も有効活用して事業を展開する農業法人、せいわの里の北川静子代表取締役を訪ねた。

### 商工会のサポートで 乗り越えられた補助金の壁

**増山** 北川さんが、農業法人をつくられて、もう10年ですか。

**北川** 昨年10周年を迎えました。加工品の製造販売・農村料理レストランの「まめや」の運営などをしていきますが、さまざまな方に支えられながら、地域の里の恵みを掘り起こし、また、お客様からも地域の宝に気付かせていただいた10年でしたね。

**増山** 私は本籍が三重県なので、三重にはよく訪れますが、元気な農業法人がたくさんありますよね。そも



### 増山 としかず

ますやま・としかず ● 全国商工会連合会 中小・小規模企業成長実行本部長。東京大学卒業後、昭和60年、通商産業省（現経済産業省）入省。中小企業政策や通商貿易政策など産業政策全般に取り組む。平成24年、北海道経済産業局長。平成26年、中小企業基盤整備機構筆頭理事

そも、会社を立ち上げるきっかけはなんだったのでしょうか。

**北川** もともとは味噌などをつくるボランティアグループの活動でしたが、メンバーの高齢化にともない、このままでは農村の食文化が廃れていくという危機感があったのです。さらに、農業をはじめ地域全体も同じような状況になっていることに気がきました。そこで、地域の農家などに投資を呼びかけ、農村文化の継承、農業の後継者育成を目的に、設立したのです。

**増山** その際、6次産業化の補助金や県のファンドなどの支援施策は活

用したのでしょうか。設立にはご苦労もあったのでは。

**北川** 当時は地域を何とかしたいという思いだけがあって、支援の詳しい知識はありませんでした。そんななかで、資金不足を補うために県の補助金をもらうことにしたのです。ところが、その分野はまったくの素人です。皆で集まって申請書類をつくって何度も出しましたが、全然通らなかったのです。

そこで、知識のあるプロに教えてもらおうと、県の産業支援センターに相談に行き、そこで紹介されたのが三重県商工会連合会の方でした。数字に弱く、貸借対照表などの言葉ひとつ知らなかった私たちを、手とり足とり教えてくれ、ようやく補助金をいただくことができました。

**増山** そうですね。自分たちだけでがんばりすぎないことは大事だと思いますね。たとえば、農家が自分だけで、作物をつくって、商売もして、さらに外国まで売りに行くなんて、口でいうのは簡単ですがなかなか難しい。でも、商売に携わっている人や商工会に少し聞けば簡単に解決できることもあるのですから。



### 北川 静子

きたがわ・しずこ ● 勢和村(当時)役場勤務を経て平成15年、農業法人の有限会社せいの里を設立。平成17年に、加工品の製造販売・農村料理レストラン「まめや」を開店。農村文化に触れるさまざまな体験イベントを行うなど、幅広い活動に取り組んでいる。

**北川** いかにか知識が必要かを痛感しましたね。それまで自分たちだけで数字と格闘した2年間は、もう県との戦いみたいでした。その壁を商工会のサポートで乗り越えることができました。おかげで、私たちにも数字の力が付き、仲間の絆も深まってきましたね。

### 大豆の生産を見直して 地産地消から地産外消へ

**増山** 結束が固まると新しい取り組みにもつながり、事業に広がりが出て

てきますよね。

**北川** 私たちは、設立から地産地消を掲げてやってきましたが、最近では、加工品などを外に売っていく地産外消の取り組みも始めています。

そこでわかったのが、生産の部分が重要だということでした。地産外消では、他地域の商品と比較されま

す。すると、マーケティング力や差別化が求められますから、もとの素材に他商品とは違う強みがほしいと考えたのです。そこで、地元の在来種の大豆に着目するとともに、大豆生産にしっかりと軸足を置くことにしました。そこから加工、そして販売へとつながっていくのです。昨年と一昨年は農工商連携の補助金も活用させていただき、地域の若い農家と「まめや」が一緒になって大豆生産に取り組んでいます。

**増山** 補助金活用の理想的な成功モデルではないでしょうか。今後、やる気のある人が成功するためには、北川さんたちが味わったような苦労をすることがないように、政策をわかりやすくする必要がありますね。

**北川** 増山さんのいう通りです。全

国からここに多くの方が視察に来ますが、地域への思いはあっても、どう考えて、動けばいいかわからない人が多い。知識をもった人との結びつきもなく、補助金の仕組みが実際に使いた

い人に届いていないのです。また、ただ「補助金がありますよ」といわれても地域の人は、不安で使えないこともあると思います。そこもきちんとサポートしてくれれば、安心して取り組めると思いますよ。

**増山** 政策をわかりやすく伝えること。そして伝える人、たとえば商工会の経営指導員などが、不安をもった事業者さんに寄り添ってサポートすること。この2つがとても大事ですね。ありがとうございました。



1.田園風景のなかに建つ「まめや」。平日でもランチときには多くの人が訪れる 2.農村料理レストランでは、田楽や大豆料理など、懐かしい味を楽しませてくれる 3.レストランに併設された直売所。新鮮野菜から加工食品まで、幅広い商品を扱う

